

市政ニュース

市職員が「e通勤」にチャレンジ 公共交通機関を利用者の目線で体感

一人ひとりが快適で便利な車を求めた結果が、バスなどの公共交通機関の衰退のほか、地球温暖化、市街地の郊外化、交通事故の増加などさまざまな社会問題を引き起こしています。

そこで、市職員が問題意識を持ち、バスなど公共交通機関による通勤実験を実施することとしました。

目的
公共交通機関を日常生活の移動手段とする利用者市民の目線で公共交通機関の利便さや不便さを体感する
職員の地球環境問題や公共交通機関問題への意識啓発を図る
職員の通勤時における公共交通機関利用のきつかけづくりを行う
今後のバスサービス向上への基礎資料とする
継続実施や他事業者への拡

大の課題や可能性を検証する

実施期間

1月7日(月)～2月15日

(金)の都合の良い日1日

対象公共交通機関

全但バス、コバス、竹野バス、但東バス、JR、KTR

参加者登録状況(12月28日

現在) 236人

市では、この実験による二

酸化炭素排出抑制量を試算し

公表する予定としています。



1月7日、「e通勤」にチャレンジした中貝市長

城崎地区公民館(城崎総合支所3階)がリニューアルオープン 多様化するニーズに対応

12月27日、これまで進めてきた城崎地区公民館(城崎総合支所3階)の改修整備が完了し、行政関係者・地元関係者などが集り、同公民館で竣工式を行いました。

これは、県の県民交流広場事業の補助を受けて、調理室や会議室、多目的ホールなどを整備したもので、多様化する地域課題や生涯学習ニーズに対応でき、多くの人々が集い、語り・学ぶことができる施設となっています。



城崎文化協会が披露された「寿獅子」の舞

会場では、オープンを祝って、城崎文化協会から長唄、寿獅子の舞が披露されました。

兵庫県電気工事工業組合但馬支部と災害協定を締結 災害時の早急な復旧工事に期待

12月14日、市は、兵庫県電気工事工業組合但馬支部と災害時における応急対策業務に関する協定を締結しました。

同支部は、豊岡市内にある62の電気工事関連会社を含む但馬地域の131電気工事関連会社で構成されています。

協定内容には、災害時における情報収集、感電災害・漏電災害の防止、仮設電気工事・応急復旧工事などが盛り込ま

れています。

同支部長の安田 稔さんは

「今後は但馬全体で協定を結びたいと考えています。そのきつかけとして、今回、豊岡市と協定を結べたことは大変うれしく思います」と話すと、中貝市長は「いざという時は、地元の人の力が大きな力に変わります。頼もしい味方ができ、とても心強いです」と答えていました。

〔主な市政の動き〕

〔12月〕

- 6日・(仮称)但東北部温泉建設工事安全祈願祭
- ・豊岡市民生委員児童委員感謝状・委嘱状伝達式
- 8日・2007但東冬の光フエスタ
- 14日・兵庫県電気工事工業組合但馬支部と災害協定締結
- 15日・コウノトリ野生復帰学術研究発表会
- ・「環境農業」シンポジウムで市長講演(松江市)
- 17日・夢劇場・ブラックパネルシアター
- 20日・フクノハナ振興プロジェクト報告会
- 21日・豊岡市歌の「歌詞」決定
- ・市の鳥・市の両生類・市の石制定
- 27日・城崎地区公民館竣工式
- ・市政10大ニュース発表
- 28日・市役所仕事納め式
- 〔1月〕
- 4日・市役所仕事始め式
- ・豊岡市賀詞交換会
- 6日・豊岡・城崎・竹野・但東消防団出初式
- 7日・出石消防団出初式
- 13日・豊岡市成人式

夢劇場・ブラックパネルシアター

愉快的パネルシアターで子どもたちへメッセージ

12月17日、市では、コウノトリ子育て支援メッセ事業の一環として「夢劇場・ブラックパネルシアター」を子育て総合センター子育て学習室で開催しました。

この催しは、暗闇の中での物語体験や、幻想的な光景の創出により、情操を豊かに育むことを目的に開催したもので、1部、2部を合わせ約200人の親子が参加しました。

子どもたちは、歌に合わせてパネルシアターや暗闇に浮かび上がるブラックパネルシアターにすっかりくぎ付けになり、リズムに合わせて一緒に踊っていました。

また、第1部の最後には、豊岡総合高等学校の生徒によるバルーンアートのプレゼントがあり、子どもたちは、思いがけないプレゼントに歓声を上げていました。



パネルと音楽に合わせて一緒に手遊びをする子どもたち

日本海信販株式会社・兵庫県麺類食堂業生活衛生同業組合からコウノトリ基金に寄付を受ける コウノトリ野生復帰の取組みに多方面から支援

12月20日、日本海信販株式会社からコウノトリ基金に182,692円の寄付を受けました。

同社では、豊岡市が進めるコウノトリ野生復帰の取組みを支援するため、昨年6月にコウノトリ支援カード「TAIMA KOUNTOR Iゴールドカード」を発行しました。このカードは、利用代金と年会費の一部がコウノトリ保護支援金として「コウノトリ基金」へ寄付されるこ

とになっています。

当日は、同社の村田憲之常務取締役営業本部長が「コウノトリの野生復帰を応援しよう」と企画しました。ぜひ、役立ててください」と話すと、中貝市長は「企業のこのような取組みは豊岡にとって喜ばしいことです。コウノトリの野生復帰のために大切に使用していただきます」と答えています。

また、同日、兵庫県麺類食堂業生活衛生同業組合からコ

ウノトリ基金に10万円の寄付を受けました。日本麺類食堂業生活衛生同業組合の近畿ブロック大会が、11月22日、豊岡市出石町で開催され、その大会で、中貝市長が記念講演を行った縁により、今回の寄付となりました。

当日は、同組合理事長の河野勝雄さんが「豊岡市が取り組むコウノトリと共生できるまちづくりに役立ててください」と話し、中貝市長に寄付金を手渡されました。

中貝市長の後継母記

子育て頑張れ

昨年は豊岡にとって特別な年となりました。日本の野外で43年ぶりにコウノトリのヒナが誕生し、46年ぶりに巣立つていきました。私たちは「命への共感」をもってコウノトリの親子に声援を送り続けました。その同じ共感をもって子育てを応援したい、そう考え、昨年の秋、子育て応援メッセージとしていくつかの施策を打ち出しました。

子育ては本来楽しいものでも子育てを経験しました。トイレでおしめを洗ったり、ミルクを飲ませている最中ゲボツとされて服を汚したり、夜泣きをする子を半分腹を立てながらあやしたり。妻の苦労に比べれば何ということはないのですが、結構大変でした。が、同時に楽しい経験でした。高校の卒業式で在校生の拍手に送られて退場する娘の姿を扉の影からこっそり見たとき、「ああ、この子がいてくれて本当によかった」と思

いました。子育てのおかげで私の人生は確かに豊かなものになったのだと思います。

しかし、現実には、楽しいはずの子育てに苦しむ親がたくさんいるのはなぜなのか。幼児虐待や児童虐待が後を絶たないのはなぜなのか。

みんなで応援しよう。行政も地域も、まち中が「あなたにしている子育てはすばらしい仕事だ、応援しているよ」そのメッセージを伝えよう。お店にも声をかけました。

市が発行する子育てカードを持つ方には、何か特別の配慮をしていただけませんか？ そうしたら200を超える方々から参加の表明がありました。分かった、皿そば一皿おまけするよ、値段を10%割り引くよ、ポイント2倍あげるよ、住宅ローンの金利おまけするよ。もつともつと輪が広がることを切に願っています。

子育てが楽しいまち、子どもが元気に育つまち。それが豊岡の願いです。

